

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 30 号

発行日
2024.6.30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○本当の「自分史」(告白?)も、もう少し必要?!

さて、ある意味では突然であるが、折角の節目ではあるので(第30号)、ここで少しだけ、これまでの新通信作成について的心境(反省?)を語っておきたい!わざわざ「あくまでも自分史として」という、それなりに意味深な副題(恰好?)をつけておきながら、それらしきものは、あまり見せていない!!もちろん、関連記事の折々に、それと思わせるようなものはあることはあるが、それらが、本当に「自分史」と言えるのかといったら、それはそれで、かなり怪しい?!

ということ、そういう感じの「新通信」となっているということであるが、やはり、まだまだ書いてはいけない(否)まだ、そういうことまでは、ここでは書いてはいけない(否)ことが多々あるということである!それは何かであるが、一言で言えれば、それは、自らの暗部、有体に言えば、思い出したくない(認めたくない?)ものということである!!もちろん、個別の事柄については、ほとんど失念(高齢忘却?)しているわけであるので(時々思い出はするが!)、問題は、心のどこかにしまい込んである(それ以外のこと)ということになる!!

ちなみに、それについては、以前、どこかに書いたようにも思うが、私自身は、実は、小心者!そして、結局は、うまくいかない人、そういうようにも思っている!しかも、そこに、九州人(否、唐津人?)の悪い癖(恰好?)いい人ぶっている?一見豪放磊落のように振舞っている?)が被さっている!!

だが、いざれにしても、様々なことがあった!思い出せばキリがない!!そして、今を生きている!余計なことだが、ここで書くことは、まだまだ「辞世」のそれではない(だから、懺悔のそれでもない)笑!!ただし、それは別物?

○折角のズームアカウントが泣いている?!

上記に、多少書き加えておきたいことがある!それは、私自身が、しつこい(諦めが悪い?)ということである(我が奥さんからも、よく言われること!)!!その証左の一つが、ズームアカウントの保持である(持たなくてもまったく支障はないし、参加しようと思えば、いつでも参加できる?)!折角取得しているのに、それがほとんど活用されないということでもあるが、何故か、破棄できないのである(先日更新もした!多少値上がりしていた!)!

一応は、どこかで、自分は、まだまだ現役ではあるのだぞということを示しているのだから(事あるごとに引退表明?しているにも拘らず!)、それが、ほとんど空回りしている!!そのようにも思うが、要は、私を取り囲む状況(時代)が変わってしまった!!私が欲する人間関係や情報のやり取りが、最早時代遅れ(時代錯誤?)になってしまっているということもあるが、何とも寂しい限りなのもある(まるでドン・キホーテか?)!

もちろん、ズームは、時間と対応機器を共有しなければ成立しないので、公務や必須の状況でなければ、そして、本当に、本人が必要だと思うものでなければ、なかなか活用できるものではない!懐かしさや義理人情?だけでは、継続的な交流は難しいのである!

ただ、たとえそうであるにしても、今、唯一のプログラムである「教育協働アカデミー」(原則月一回第一水曜日午前、「岳陽チャンネル」として実施)だけは、何としてでも成功(持続)させたい!それが、しつこい(諦めが悪い?)私の願いでもあり、意地でもあるわけである!!

○淡路島行! 細やかな(恵まれた?)日常の「コマ」として?!

予定していた、夫婦での淡路島への「ささやかな旅」(21、24日)から、昨日戻った。多少気がかりなことがあったが(二つなお、一方のそれについては、そのための準備もして!)、折角の計画でもあったので強行した次第である!結果的には、何事もなく、そして、梅雨入りした当地への訪問も、ほとんど影響はなく、快適に過ごさせてもらった!岡山に住む三女の同行(半分は、車の運転手?)もあって、久しぶりに楽しい時間であった!旅行を計画してくれた我が奥さんには、本当に感謝である!

それにしても、淡路島は、本当に広いものである。今回の旅は、その淡路島の北から南まで(正確には大鳴門橋の徳島側側まで。残念ながら、潮の関係で、大渦は見られなかったが!)、しかも、播磨灘(大阪湾)と瀬戸内海の両方を見ながら、名所旧跡を訪ねた(一般の人は行かない所まで?五斗長垣内(ごとうながかき)と遺跡や倭大國魂神社等)。もちろん、多くの人が訪れるだろう、伊弉諾神宮や各種花の公園(幾つか行ったが、名前は覚えていない!笑、そして、「たこせんべいの里」にも行った(奥さんと三女は喜んで!)!お世話になった二つのホテルは、食事等、とても良かった(在福良の二日目のホテルの露天風呂は最高であった!)!

地元在住のF君(大学の同期、夫妻との再会、その奥さんの食事が注文されていなかったハプニングもあったが、互いに、さらに年を取ったものだと思つた(F君とは、7年前に広島で再会していた!)ちなみに、ハプニングと言えば、初日の神戸三宮での泊の時、摩耶山からの帰りのバスで、反対方向の路線に乗り、かなりの遠回りをしたこと(一時はどうなることか思つた!)、帰りの高速バスで、我が奥さんが、間違つてチャージしてないICカードを出して、料金不足で、現金を払つたこと(先に降りていた私は、何が起っているのか、その時は知らなかった!)

思い出せば、まだまだ書きたいことはあるが(神戸の夜景、淡路島の玉ねぎ、シラス井のこと等、今回の旅は、あくまでも、私達老夫婦?の、今の生活(いつまで続くかわからない?)の一部、細やかな日常の「コマ」として実現させたい!そういう恵まれた?高齢者の旅でもあったということである!(井上)

○フロンティア！それは、いつの時代にもある？！

もう随分経つが、過日、「フロンティア」というNHK番組を観た。「ぜんぶ見せます！AIと、AIについてガチ対談！」ということであったが、何とも奇妙なものであった！AIは、ついにごまかされたのかというところであるが、実は、この番組は、「NHKのBSチャンネルが12月にリニューアルされた。新チャンネルの目玉として企画されたが様々な分野で知の最前線を巡るこのシリーズ。当然、力が入っている。最初のテーマは『日本人とは何者なのか』とあった（これも確か観た）。

「番組には、科学、宇宙、そして歴史や文化といったさまざまな分野で、未知の領域「フロンティア」を切りひらいているフロントランナー（専門家など）の方々が登場し、彼らにしか見えていない一歩先の新しい世界を語ってくださいます。そうしたフロンティアから見える新しい世界観を映像化する際に、表現の世界のフロントランナーであるオダギリジョーさんと蒼井優さんの感性を掛け合わせてお伝えしたいと思いました。ぜひ、作り手」として参加していただきたいと、オファーをさせていただきました。そんなお二人に語りをしていただくわけですから、『これまでと同じではない伝え方』『テーマにあつた語り口』を内容に合わせて考えながら制作しています。毎回ちよつとずつ違った語り口になっていますので、その点も楽しんでいただきたいと思います。」（白川裕之チーフプロデューサー談）とある。

今回は、「進化が止まらない人工知能・AI。その最前線について。AI「本人」はどう感じているのか？フロンティア取材班は、はるばるイギリスへ！最新のAIテクノロジを駆使して開発されたヒューマノイドロボット「Ameca（アメカ）」に、「ガチンコインタビュー」を申し込みました。」ともある。いずれにしても、ほとんどの番組を観ていないことに気づかされた私であるが、本当に世界は動いて（変わって）いるのである！

○そこには、勝負するもの（場や形）がある？！

しかるに、上記も含めて、今、改めて思うことは、人の人生において、何らかの「勝負するもの（場や形）」がある人（とそうでない人の違いは、大きいことである！現在、そうしたものが、ほとんど消え失せている我々（高齢者）にとっては、まさにそれが実感ものなのである！こんなことを書くとき、また誰かに自虐ネタ（年寄りの僻み）に走っているとされるかもしれないが、先の「プロジェクトX」に登場した人々や最先端のスポーツ選手・チームには（こちらは、たまたま見たネット情報、まさにそれがある）のである（だから、感動を与えるのもあるが！）

とは言い、それが、ある種の「生き甲斐・やり甲斐」ということであれば、我々（高齢者）にも、敷衍される（ただし、それは、ここで言う「勝負」ではない！）！だが、ここで言いたいのは、それを超えた、何らかの重たい課題（普通の人では解決することが出来ない？）を担っている人達のことである！ただし、それが出来るのも、そこに「場や形」がある（否、創れた）からである！そこが何とも羨ましい！！

＜短歌に託して＞今回は、何故か「何故」に収斂する！

・あくまでも自分史として” そんな副題

何故入れる？ そこにあるのは やはり恰好？

・ズームアカウント ほとんど不要と思つても

それでも持つは 何故（な）ぞ？

・淡路島 国生み神話は 嘘じやない？

されど何故（な）ぞ？ そこに行つたのか！

・フロンティア 何故にかくも多くある！

だが何故（な）ぞ？ 無縁の我が見る？

・勝負するもの そこには場や形がある！

だが何故（な）ぞ？ それは そこにある？！

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕 ⑩

○改めて、古代九州の全体像を探る―その1―

というところで、改めての課題は、北部九州での、神功皇后（皇太后）や武内宿禰の謎（彼らは、近畿から動いてきたようになっている）の解明である（もちろん仲哀天皇（住吉大神を祀む）！例えば、別な情報によると、神功皇后（父親は皇孫宿禰王／開化天皇孫、母親は葛城高祖姫／天日矛の子孫）は、背後山南麓に、その縁の痕跡があり（佐賀県佐賀村には、彼女を祀る「野波神社」と、その父母を祀る「下宮神社」がある）、武内宿禰（孝元天皇の孫・屋主武内宿禰命（または、その父の彦太忍命？）と、葛城彦（紀高祖）の女の影姫との子とされている）は、その父親？（屋主武内宿禰命武内宿禰）が、佐賀県武雄市に所縁の人物となっている！そして、武内宿禰は、北部九州（筑後国）では、「藤大臣」（高良玉垂命）とも称され、一方でまた、南部九州では、何と熊襲の英雄？「弥五郎とん」ともされている！

とにかく、その長寿の異名も含めて（360歳と）、まったくもつて謎（正体不明）の人物と言わざるを得ないのであるが、彼はまた、「波多氏」「平群氏」「巨勢氏」「木曾氏」「蘇我氏」、そして「葛城氏」等、いわゆる「葛城諸族」の祖ということにもなっているのである！通説によると、武内宿禰は、主君の神功皇后に常に寄り添って、その忠告を果したというところであるが（そのため、戦前には我が国の紙幣にも顔を出している）、とてもじゃないが、このままでは、謎の人物（非存在？）ということとで終わってしまう（うむむとされる）！

おまけに、墓所は、大和の「聖山古墳」ともされるが、因幡（鳥取市の「宇倍神社」とも言われる）伊備郡の関わりか？彼らは、かつて筑後川流域にいた！）！いわゆる「職掌」、あるいは「複数の人物（モデル）」の重ねといることもあろうが、個人としてはなく、その勢力、血統という視点でみれば（現代も、その末裔と称する人達がいる！本当かどうかは、知る由もないが）、そこにある真実、そして、それが有している古代史解明の鍵が、おそらく（否、絶対に）見つけられるかもしれない！（つづく）（堂本）

＜編集後記＞とにかく、そうこうしている内に、沖繩は、梅雨明け！他方で、次は、本土の梅雨入り！離れているから？否、繋がっているから？まるで、それは、沖繩（の人）の心情のよう！！それはともかく、梅雨明けの沖繩は暑い！普通の年より2度くらい高い？盛夏ともなれば、想像するだけでも怖い？（井上／堂本）